



禁煙は愛!

健康かわら版

塩谷地区休日当番表

-保存版-

令和7年4月～
令和7年9月

発行日：令和7年4月1日

発行：塩谷郡市医師会(028-682-3518)

塩谷地区の休日当番医(昼間)

月日	矢板市(0287)	塩谷町(0287)	さくら市(028)	高根沢町(028)	夜間診療
4月	6日(日) 村井医院 43-0064	*	小林医院 686-2061	菅又病院 676-0311	くろす
	13日(日) 村井胃腸科外科 クリニック 40-3055	大和田内科 45-2411	おのこどもクリニック 681-1600	高根沢中央病院 675-1133	しおや
	20日(日) 矢板南病院 48-2555	*	森島医院 682-2116	深澤クリニック 676-0671	くろす
	27日(日) 後藤医院 44-2323	風見診療所 46-0656	高瀬小児科医院 682-5511	中津川循環器科 内科クリニック 675-7521	くろす
	29日(祝) 上田医院 43-7766	*	花塚クリニック 686-7667	関根クリニック 612-7015	くろす
5月	3日(祝) かるべ皮フ科 小児科医院 43-1210	*	根本医院 682-2800	阿久津医院 675-2511	くろす
	4日(祝) 佐藤病院 43-0758	*	きぬの里クリニック 612-8710	倉持整形外科 積 675-0033	くろす
	5日(祝) なかじまクリニック 48-7701	*	半田クリニック 682-3270	越井クリニック 680-1133	しおや
	6日(祝) 村井医院 43-0064	*	佐野医院 686-2002	菅又病院 676-0311	しおや
	11日(日) 西川整形外科 48-2552	大和田内科 45-2411	佐藤クリニック 681-7666	高根沢中央病院 675-1133	くろす
	18日(日) 尾形クリニック 43-2230	*	仲嶋医院 681-7755	深澤クリニック 676-0671	くろす
25日(日) 橋本医院 43-0406	風見診療所 46-0656	中川耳鼻咽喉科医院 682-3291	中津川循環器科 内科クリニック 675-7521	くろす	
6月	1日(日) かわしま循環器内科 43-5470	*	にし内科ハート クリニック 682-8920	菅又病院 676-0311	くろす
	8日(日) 村井胃腸科外科 クリニック 40-3055	大和田内科 45-2411	桜ヶ丘内科・呼吸器科 クリニック 611-6597	高根沢中央病院 675-1133	くろす
	15日(日) 後藤医院 44-2323	*	岡医院 681-1251	深澤クリニック 676-0671	くろす
	22日(日) 上田医院 43-7766	風見診療所 46-0656	檜山医院 682-2730	中津川循環器科 内科クリニック 675-7521	しおや
	29日(日) 佐藤病院 43-0758	*	小林医院 686-2061	関根クリニック 612-7015	くろす
7月	6日(日) 矢板南病院 48-2555	*	おのこどもクリニック 681-1600	菅又病院 676-0311	くろす
	13日(日) 西川整形外科 48-2552	大和田内科 45-2411	森島医院 682-2116	高根沢中央病院 675-1133	くろす
	20日(日) かるべ皮フ科 小児科医院 43-1210	*	高瀬小児科医院 682-5511	深澤クリニック 676-0671	しおや
	21日(祝) なかじまクリニック 48-7701	*	花塚クリニック 686-7667	阿久津医院 675-2511	くろす
	27日(日) 尾形クリニック 43-2230	風見診療所 46-0656	根本医院 682-2800	中津川循環器科 内科クリニック 675-7521	くろす
	3日(日) 橋本医院 43-0406	*	きぬの里クリニック 612-8710	菅又病院 676-0311	くろす
8月	10日(日) かわしま循環器内科 43-5470	大和田内科 45-2411	半田クリニック 682-3270	高根沢中央病院 675-1133	くろす
	11日(祝) 村井胃腸科外科 クリニック 40-3055	*	佐野医院 686-2002	越井クリニック 680-1133	しおや
	17日(日) 村井医院 43-0064	*	佐藤クリニック 681-7666	深澤クリニック 676-0671	くろす
	24日(日) 上田医院 43-7766	風見診療所 46-0656	仲嶋医院 681-7755	中津川循環器科 内科クリニック 675-7521	しおや
	31日(日) 後藤医院 44-2323	*	中川耳鼻咽喉科医院 682-3291	関根クリニック 612-7015	くろす
	7日(日) 西川整形外科 48-2552	*	にし内科ハート クリニック 682-8920	菅又病院 676-0311	くろす
9月	14日(日) かるべ皮フ科 小児科医院 43-1210	大和田内科 45-2411	桜ヶ丘内科・呼吸器科 クリニック 611-6597	高根沢中央病院 675-1133	しおや
	15日(祝) なかじまクリニック 48-7701	*	岡医院 681-1251	倉持整形外科 積 675-0033	くろす
	21日(日) 尾形クリニック 43-2230	*	檜山医院 682-2730	深澤クリニック 676-0671	くろす
	23日(祝) 橋本医院 43-0406	*	小林医院 686-2061	関根クリニック 612-7015	くろす
	28日(日) かわしま循環器内科 43-5470	風見診療所 46-0656	おのこどもクリニック 681-1600	中津川循環器科 内科クリニック 675-7521	しおや

注：休日当番医・夜間診療室は変更される場合がありますので、広報・新聞・塩谷郡市医師会ホームページでお確かめ下さい。

塩谷地区夜間診療室 (土・日曜日 18時30分～21時)
土曜日：黒須病院のみ診療

1. お電話で確認の上受診してください。
2. 担当医により小児診療ができない場合があります。

塩谷病院 TEL：0287-44-1155

黒須病院 TEL：028-682-8811

各診療日：夜間診療欄に「しおや」(塩谷病院)「くろす」(黒須病院)で表記

感染症の歴史を訪ねて

新型コロナウイルス感染症は発生から5年が過ぎ、ウイルスが弱毒化し予防接種も普及したため、もう以前のように恐怖心を感じることはなくなりました。しかし、いずれまた新たな感染症が発生して私たちの生活が脅かされる日が必ず訪れます。なぜなら、人類の歴史は感染症との闘いの歴史でもあるからです。今回は身近にある感染症の歴史を伝える遺物を紹介しますので、機会があったら訪ねてみてください。

岡 一雄



天然痘と牛痘種痘

天然痘は痘瘡、疱瘡などとも呼ばれ、小児が罹ると致死率が高いことから人類が最も恐れた感染症の一つです。NHK大河ドラマ『光る君へ』に登場した藤原道長は、兄の道隆、道兼が天然痘で相次いで亡くなったため、権力のトップに上り詰めることができませんでした。

天然痘は治癒してもあばたが残るのが特徴です。宇都宮が生んだ寛政の三奇人のひとり「蒲生君平」の肖像画には天然痘によるあばたが描かれています。夏目漱石の肖像画が顔の左側しか見せないのは、あばたを隠すためだと言われています。

宇都宮市の郷土玩具である「黄ぶな」は天然痘に罹った子どもが近くの川で釣れた「黄ぶな」を食べたところ、完治したという伝説から作り始められました。



黄ぶな

日本全国には疱瘡除けの願がかけられた神社がたくさんあります。県内でも那須町的那須温泉神社、鹿沼市の駒形神社、茨城県との県境にある鷲子山神社などには、疱瘡神社が残されています。さくら市上阿久津の高尾神社の鳥居の前にも疱瘡神の祠がありました。今では大部分忘れられています。神社参拝の際に探してみると見つかるかもしれません。

天然痘の予防接種として登場したのが、イギリスのジェンナーが発明した牛痘種痘です。牛痘種痘のおかげで天然痘は昭和55(1980)年に絶滅し、人類が克服した最初の感染症となりました。日本では昭和51(1976)年に牛痘種痘の定期接種を中止したため、それ以降に生まれた人の左肩には種痘痕がありません。皆さんの肩には種痘痕がありますか？

はしか(麻疹)

予防接種の普及により、はしかはあまり見かけない病気となり、はしかを診たことがない若い医師も増えています。はしかは、かつて小児が死亡する感染症として恐れられていました。矢板市早川町の旧シャープ工場敷地内にある御前原城本丸跡には「はしか地蔵」として有名な高さ1メートルばかりの石造地蔵尊があります。これは塩谷城主塩谷弥六郎由綱が父高綱の菩提を供養して建立しました。その石地蔵尊を削った粉を飲ませるとはしかが早く治癒するという言い伝えから、県内外から多くの参拝者が訪れて削ってしまったため、顔の原型が失われてしまいました。



はしか地蔵

小児の常備薬として有名な「宇津救命丸」は栃木県を代表する売薬ですが、その発祥の地は高根沢町にあります。中世の豪族宇都宮氏の旧臣であった宇津家は豊臣秀吉による主家の改易により、武家をやめ帰農土着して名主を務めましたが、「宇津救命丸」はその宇津家に伝わる一子相伝の家伝薬でした。文政7(1824)年のはしか流行時に出された領主のお触れには、はしかに罹った時は宇津救命丸を一粒ずつ煎じて用いるようにと書かれています。高根沢町の宇津救命丸は見学も可能ですので、ホームページ等で確認ください。

コレラ

コレラは、江戸時代末期から明治期にかけて全世界で最も恐れられた感染症です。「虎狼痢」「虎列刺」などの当て字が使われ、発症して三日で死んでしまうため「三日コロリ」とも呼ばれていました。現在の感染性胃腸炎と同じように患者の止瀉物で感染するため、消毒や患者隔離など衛生の考えが重要ですが、当時の人々には受け入れられず、コレラから逃れるために神仏にすがりました。さくら市上阿久津にある与作稲荷は明治15(1882)年のコレラ流行時にコレラ感染を防ぐ霊験あらたかであると評判を呼び、参拝者が増加したため、その賽銭で社殿を新築することができたと社殿内の板絵に書かれています。



与作稲荷

さくら市喜連川地区にある喜連川神社の天王祭の神輿巡行は勇壮なことで有名ですが、その神社に大きな板絵が奉納されています。文久2(1862)年コレラが全国的に流行し、喜連川でも死者が出たため、喜連川宿の人々はその流行を抑えるために臨時の神輿巡行を行いました。その結果無事流行が収まったため、その感謝として板絵を神社に奉納したのです。板絵の絵は喜連川藩の天才絵師牧野牧陵が描き、その由来を家老で書家でもあった大草鴻堆が書いています。板絵には神により退散させられる疫病神と神輿を担ぐ大勢の人々が描かれています。この板絵はさくら市ミュージアムのホームページの有形文化財コーナーで見ることができます。



喜連川神社奉納板絵(神輿渡御図)